



「国立科学博物館大学パートナーシップ」による 学生入館状況と入館者に対するアンケート調査 2015

2015年12月

国立科学博物館 事業推進部

学習企画・調整課



1. 国立科学博物館大学パートナーシップ制度とは

国立科学博物館と大学が連携し、学生の科学リテラシー及びサイエンスコミュニケーション能力の向上に資することを目的として、平成 17 年 7 月より開始した。

学生数に応じた一定の年会費を納めた大学等に対し、連携プログラムを提供している。

① 常設展の無料入館、特別展の特別料金での観覧

入会した大学の学生は、学生証を提示することにより、当館施設に無料で何度でも入館(入園)できる。また、上野地区にて開催される特別展は、620円引きで観覧できる。

※特別展によっては 620 円引とならない場合があります。

利用可能施設 国立科学博物館(台東区)
附属自然教育園(港区)
筑波実験植物園(つくば市)

② サイエンスコミュニケータ養成実践講座 (H18 年度より)

国立科学博物館の資源や環境を活用した理論と実践を組み合わせた対話型学習。人々の意識、意欲、知識、技術を総合する「つながる知の創造」を目指す。

③ 大学生のための自然史講座 (H18 年度より)

国立科学博物館における長期プロジェクト「日本列島の自然史科学的総合研究」の成果に基づき、研究者が主に講師を務める講座。

④ 大学生のための科学技術史講座 (平成 19 年度より)

国立科学博物館の研究者を中心に、我が国の産業・文化を支えてきた、世界に冠たる日本の「ものづくり」にスポットを当てた講座。

⑤ 博物館実習生の受入 (H18 年度より 2 コースを設ける)

博物館の専門的職員である学芸員の資格取得を目指す学生に対し、学芸員としての資質・能力を体験的に養わせる実習をおこなう。

平成 18 年度から、より専門的な内容として、主に調査研究・資料収集・保管に関するコースと主に学習支援活動に関するコースの 2 コースを設けて実施している。

⑥ 見学ガイダンスの実施 (H26 年度より実施)

大学のオリエンテーションや講義での博物館利用機会の推進を図ることで、学生の博物館理解の向上と利用機会の増進を目的として実施している。

⑦ 大学との連携講座 (H28 年度試行)

自然史に関する実習の機会をより広く提供するため、H28 年度よりお茶の水女子大学と連携し、大学パートナーシップ加入校の学生の方の優先枠を設けて、講座参加者を募集する。

2. 平成 27 年度入会大学一覧

ア行	青山学院大学 麻布大学 桜美林大学 大妻女子大学（短期大学） お茶の水女子大学
カ行	学校法人 香川栄養学園 学習院大学 神奈川工科大学 慶應義塾大学 工学院大学 国際基督教大学 国士舘大学文学部 国士舘大学理工学部
サ行	埼玉大学 十文字学園女子大学（短期大学） 首都大学東京 上智大学（短期大学部・社会福祉専門学校）昭和薬科大学 聖徳大学（短期大学部・幼児教育専門学校）
タ行	大正大学 玉川大学 千葉大学園芸学部・園芸学研究科 千葉大学理学部・理学研究科 千葉工業大学 中央大学理工学部・理工学研究科 筑波大学 帝京大学（短期大学） 帝京科学大学 帝京平成大学 電気通信大学 東海大学 東京大学 東京医療保健大学 東京外国語大学 東京海洋大学 東京学芸大学 東京家政大学（短期大学部） 東京環境工科専門学校 東京藝術大学 東京工業大学 東京工芸大学 東京慈恵会医科大学 東京女子大学 東京女子医科大学（看護専門学校）東京造形大学 東京電機大学 東京都市大学 知識工学部 東京農業大学（短期大学部）東京農工大学 東京理科大学（諏訪東京理科大学 山口東京理科大学）東邦大学 東洋大学 獨協大学
ナ行	二松学舎大学 日本大学 生産工学部・生産工学研究科 日本工業大学 日本獣医生命科学大学 日本女子大学 日本薬科大学 学校法人 花田学園（東京有明医療大学 日本鍼灸理療専門学校 日本柔道整復専門学校）
ハ行	一橋大学 文教大学 武蔵野美術大学
マ行	明治大学 明星大学
ラ行	立教大学 立正大学
ワ行	学校法人 早稲田大学（早稲田大学 早稲田大学芸術学校 早稲田大学川口芸術学校）
計 68 校	

3. 平成 27 年度大学パートナーシップ利用者状況(4-12 月)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
上野地区	3,771	4,843	3,034	3,805	5,590	5,062	3,186	3,173	3,046	35,510
附属自然教育園	197	151	185	41	49	41	87	59	49	859
筑波実験植物園	301	313	368	216	414	131	540	152	160	2,595
3 施設合計	4,269	5,307	3,587	4,062	6,053	5,234	3,813	3,384	3,255	38,964

(参考)

入館者数の多い大学(学校)上位5校

筑波大学	2,988 人	東洋大学	1,375 人
早稲田大学	2,691 人	明治大学	1,323 人
東京大学	2,618 人		

登録者数に対する利用率の高い大学(学校)上位5校

東京環境工科専門学校	307.2%	東京藝術大学	22.9%
日本薬科大学	41.1%	千葉大学園芸学部・園芸学研究科	22.6%
東京海洋大学	23.8%		

4. 入館者に対するアンケート調査

平成 17 年 7 月より開始された「国立科学博物館大学パートナーシップ」制度は、平成 27 年度 12 月現在、入会校数 68 校、月平均 3,500 名程度の利用者数を数えるようになっている。

本調査は、平成 24 年度の調査に引き続き実施し、経年の変化、当該制度の認知度・利用者の属性等を調査し制度の一層の充実を図るとともに、入会大学における学生等への広報の方法について検討材料とすることを目的として実施した。

調査概要

調査期間 : 平成 27 年 9 月 1 日(火)から平成 27 年 11 月 28 日(土)
調査対象 : 国立科学博物館 上野本館にて 大学パートナーシップ制度を利用し入館した学生
調査方法 : アンケート調査 団体窓口にて利用者全員に調査票を配布し、同窓口にて回収
調査票 : 巻末の参考資料を参照
回収数 : 1,209 件
※特別展入口からの利用者については配付していない

(参考: 調査期間中の特別展・企画展等)

- ・特別展 生命大躍進(7/7~10/4)
- ・特別展 ワイン展(10/31~2/21)
- ・企画展 「世界のヒョウタン展-人類の原器-」(9/15-12/6)
- ・企画展 過去 5 万年間の時をはかる(9/8-10/12)

調査結果要旨

平成 24 年度調査(前回)の結果と同じ傾向である項目が多かった。前回から変化が認められた部分があった場合については、各項目で記述した。また、各項目の特徴的な傾向を下線で示した。

【専攻分野】

学生を専攻分野別に分けると、理系 67%:文系 38%で理系学生の方が多い。

前回調査でも理系の学生が 58%と多かったが、さらに理系の学生の利用が増えている。

*「文系・理系」を分ける専攻分野別学生数は本人の回答および調査者(国立科学博物館)が各大学の学部・学科等を考慮して算出

【性別】

男性 57.1%: 女性 42.9%と男女の割合はほぼ同じである。

【一緒に来た人】

「友人・仲間と」36%について、「同伴者なし」21%、同様に「彼氏・彼女と」21%という回答が多い。

今回新たに設けた「大学の同級生と」の項目も 10%の回答があり、大学の授業や大学 PS 事業の見学ガイダンス利用も一定数あることがうかがえる。

【来館回数】

37%が4回目以上、来館したことがあると回答している。一方で、大学PSの制度を利用しての来館は初めて、が55%と半数以上にのぼっている。

【制度に関する情報源】

大学に掲示されているポスターでの認知が22%になっている。次いで知人・友人から教えられてが20%、また教員から教えられてが19%となり、ポスター等掲示物と口コミでの認知が多いことがわかる。

【無料入館（620円引き）をどのように感じるか】

「無料（620円引き）だから来館した」と答える学生が5割、「無料でなくても来館したが来館しやすくなった」と答える学生が4割にのぼる。ほとんどの利用者にとって、無料入館が大きな来館動機となっていると考えられる。また、利用目的として、無料観覧ができる常設展をあげている回答も多くみられる。

【科学技術についてのニュースや話題への関心】

約9割の学生が、「関心がある」「ある程度関心がある」と回答している。

【科学技術に関する知識の情報源】

全体としては「テレビ」が67%と一番多いが、2番目の「インターネット」は65%であり差がない。全体・文系・女性では1番の「テレビ」が、理系・男性では「インターネット」に代わっている。また、いずれの分野においても「科学館・博物館」を4割程度が情報源として活用している。

【自由記述の傾向と代表的意見】

2015年7月に完了したリニューアル部分では、1階地球史ナビゲーター・B3F日本人ノーベル賞受賞者の展示・B1Fの恐竜・2Fの科学技術展示など、広範囲で好意的な感想がよせられた。ボランティアの解説がわかりやすかった、という意見も多い。これまでの展示では、ゼロ戦、360シアター、鉱物、動物のはく製など、多方面に関心を持って観覧されたことがわかる。一方、展示物の多さにどこを見学してよいかわからない、解説員を増やして欲しい、B3Fは理系の知識がないと理解できないなど、改善点もよせられた。

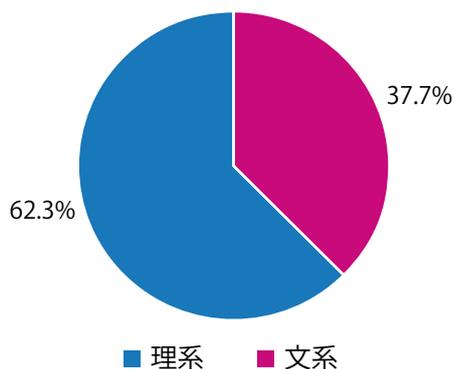
5. アンケート調査の結果から

回答した学生の学年に偏りはないが、半数以上が「制度を利用して来館したのは初めて」と回答している。また自由記述の回答から、学生へのさらなる周知が、制度の利用率アップにつながると期待できる。次のような方法が、有効であると考えられる。

- 近年、情報を得る主流の手段となっている、大学HP、インターネット、SNSなどで、より広く、学生にとって入手しやすい方法での周知を依頼する。
- ポスター、チラシ等の掲示・配布などについて、引き続き入会大学・学校に協力をお願いする。
- 入会大学等の学生便覧への掲載、新入生ガイダンスなどでの周知を依頼する。

調査結果詳細(※全体の回答および性別、専攻分野で傾向の違いが出たものについて示す。)

【回答者の専攻分野】

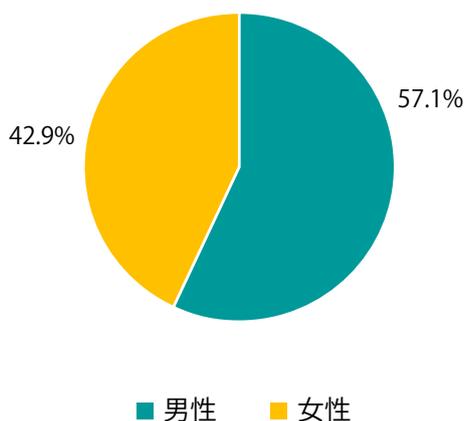


	回答数	構成比率
文系	454	37.7%
理系	749	62.3%

*「専攻分野」は、回答および調査者が各大学の学部、学科を考慮して判定した。

・理系学生の割合が高い。

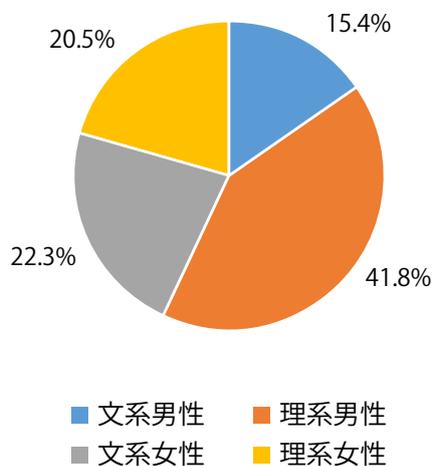
【回答者の性別】



	回答数	構成比
男性	684	57.1%
女性	514	42.9%

・男性女性はほぼ半数。

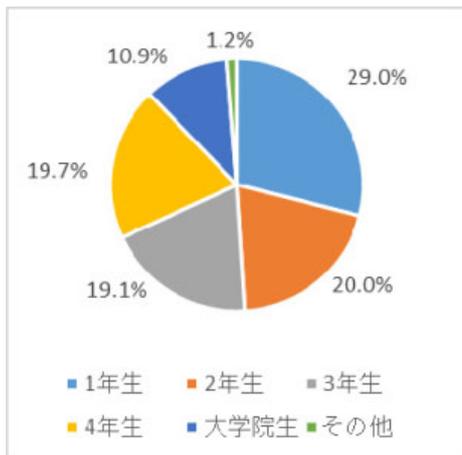
【回答者の専攻分野と性別】



	回答数	構成比
文系男性	184	15.4%
理系男性	500	41.8%
文系女性	266	22.3%
理系女性	245	20.5%

・理系男性の利用が多い。

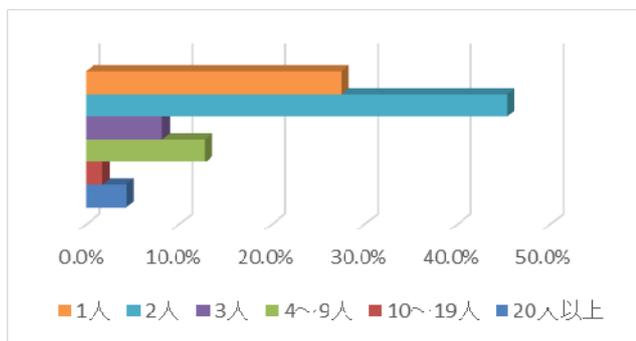
【回答者の学年】



	回答数	構成比率
1年生	348	29.0%
2年生	241	20.0%
3年生	230	19.1%
4年生	237	19.7%
大学院生	131	10.9%
その他	15	1.2%

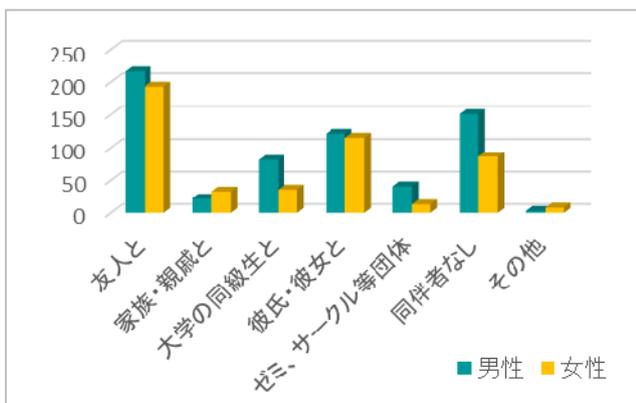
・1年生の利用が多い。

【一緒に来た人数、一緒に来た人と来館目的】



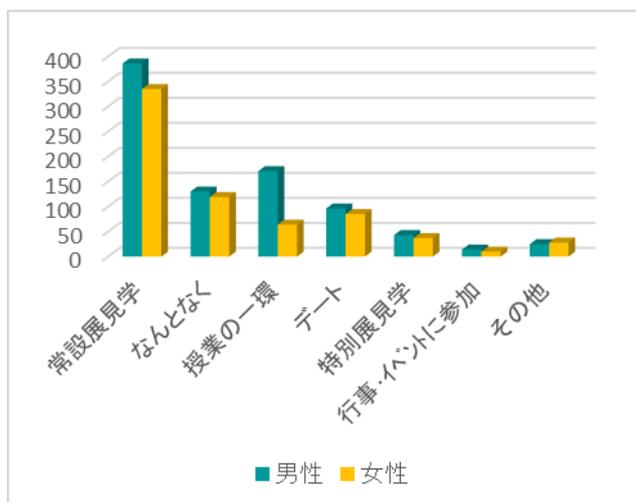
	回答数	構成比率
1人	331	27.5%
2人	546	45.4%
3人	99	8.2%
4～9人	154	12.8%
10～19人	21	1.7%
20人以上	52	4.3%

・2名での来館が半数弱になる。ついで1名での来館が多いが、4～9名という小規模グループでの来館も多い。



	回答数	構成比率
友人と	411	36.5%
家族・親戚と	56	5.0%
大学の同級生と(授業の一環)	118	10.5%
彼氏・彼女と	237	21.1%
ゼミ・サークル	54	4.8%
同伴者なし	238	21.2%
その他	11	1.0%

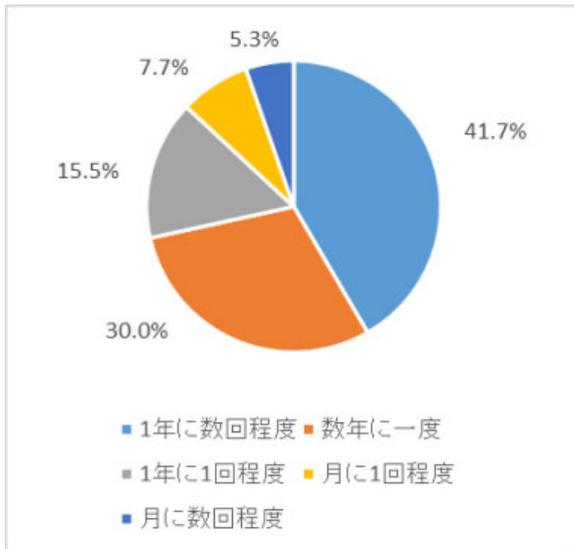
・1人の利用は男性が多い。「友人と」についで、「彼氏・彼女と」と「同伴者なし」が上位をしめている



	回答数	構成比率
常設展見学	725	48.5%
なんとなく	249	16.6%
授業の一環	236	15.8%
デート	182	12.2%
特別展見学	80	5.3%
行事・イベントに参加	24	1.6%
その他	3	0.2%

・「常設展見学」のほかに「なんとなく」「授業の一環」での利用が多い。また「デート」での利用も一定数ある。

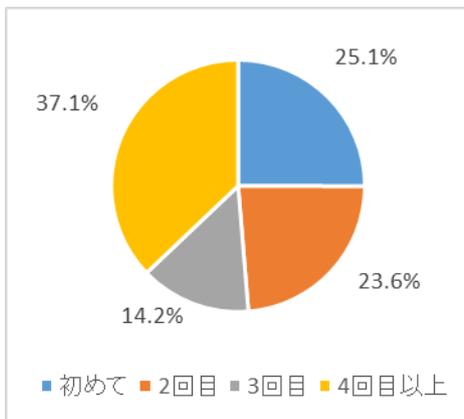
【博物館や美術館へ行く回数】



	回答数	構成比率
1年に数回程度	501	41.7%
数年に一度	360	30.0%
1年に1回程度	186	15.5%
月に1回程度	93	7.7%
月に数回程度	54	5.3%

・半数以上は年に数回、博物館・美術館を利用している。

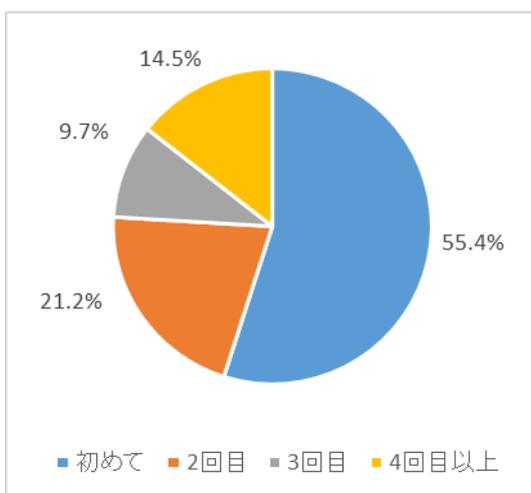
【科博への来館回数】



	回答数	構成比率
初めて	299	25.1%
2回目	282	23.6%
3回目	169	14.2%
4回目以上	443	37.1%

・4回目以上の利用者が最も多い。

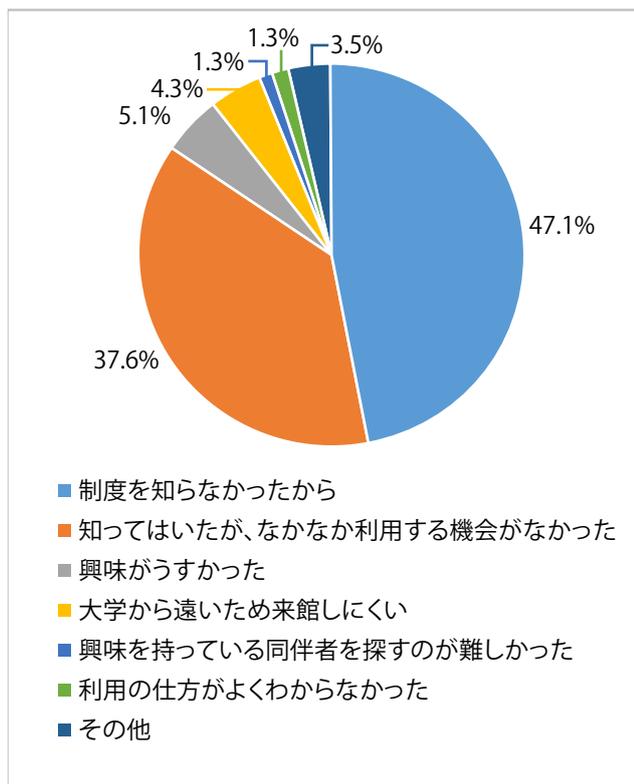
【大学パートナーシップ制度を利用しての来館回数】



	回答数	構成比率
初めて	660	55.4%
2回目	242	21.2%
3回目	116	9.7%
4回目以上	173	14.5%

・初めて利用する学生が半数以上となっている。

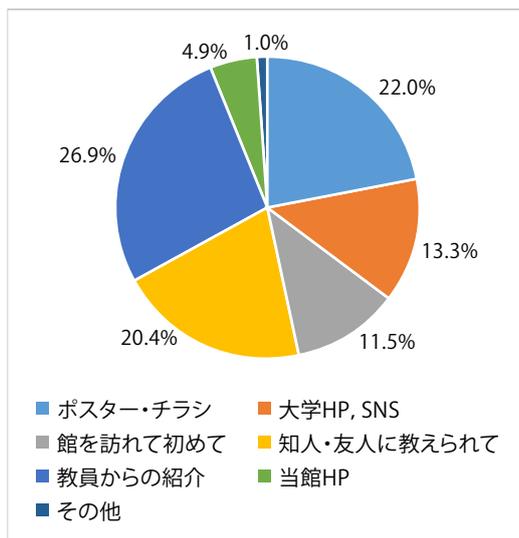
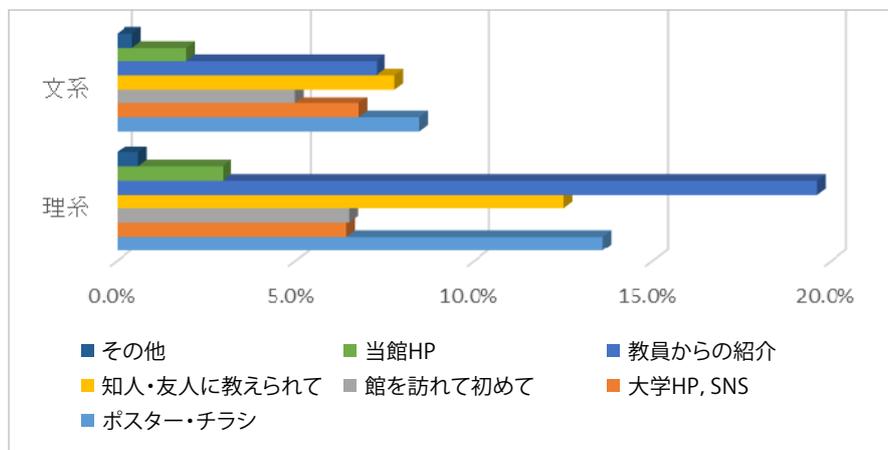
【これまで大学パートナーシップ制度を利用しなかった理由】



	回答数	構成比率
制度を知らなかったから	298	47.1%
知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった	238	37.6%
興味がうすかった	32	5.1%
大学から遠いため来館しにくい	27	4.3%
興味を持っている同伴者を探すのが難しかった	8	1.3%
利用の仕方がよくわからなかった	8	1.3%
その他	22	3.5%

・「制度を知らなかった」が最も多い。「知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった」も次いで多い。

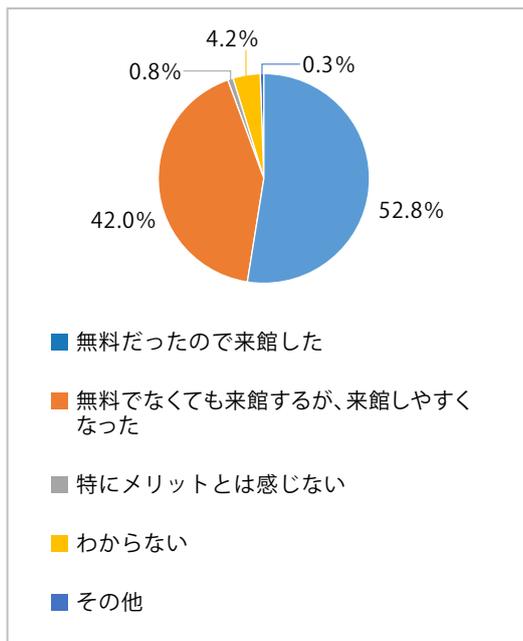
【制度（無料入館）に関する情報源】



	文系	理系	全体
ポスター・チラシ	100	161	261
大学HP, SNS	80	76	157
館を訪れて初めて	59	77	136
知人・友人に教えられて	92	148	241
教員からの紹介	86	232	319
当館HP	23	35	58
その他	5	7	12

・全体的に教員からの紹介で知った学生が多い。

【無料入館（620円引き）をどのように感じるか】

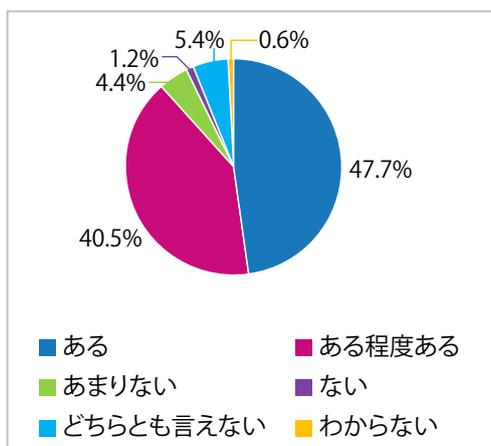


	回答数	構成比率
無料だったので来館した	610	52.8%
無料でなくても来館するが、来館しやすくなった	486	42.0%
特にメリットとは感じない	9	0.8%
わからない	48	4.2%
その他	3	0.3%

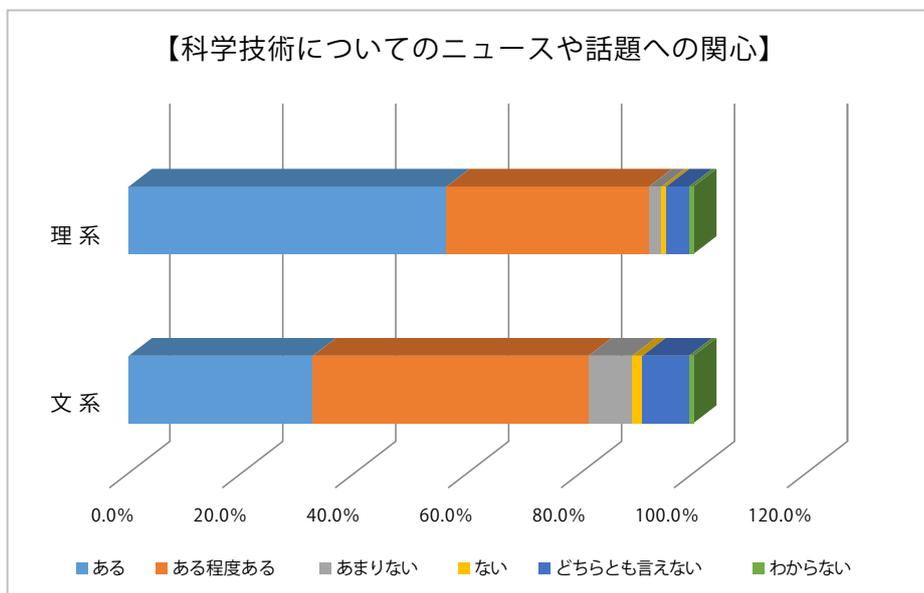
- ・無料入館（620円引き）は学生の強い来館動機になっていることがうかがわれる。

【科学技術についてのニュースや話題への関心】

この項目に関する調査には、内閣府による世論調査報告書「科学技術と社会に関する世論調査」（11頁参照）と同様の質問を用いた。

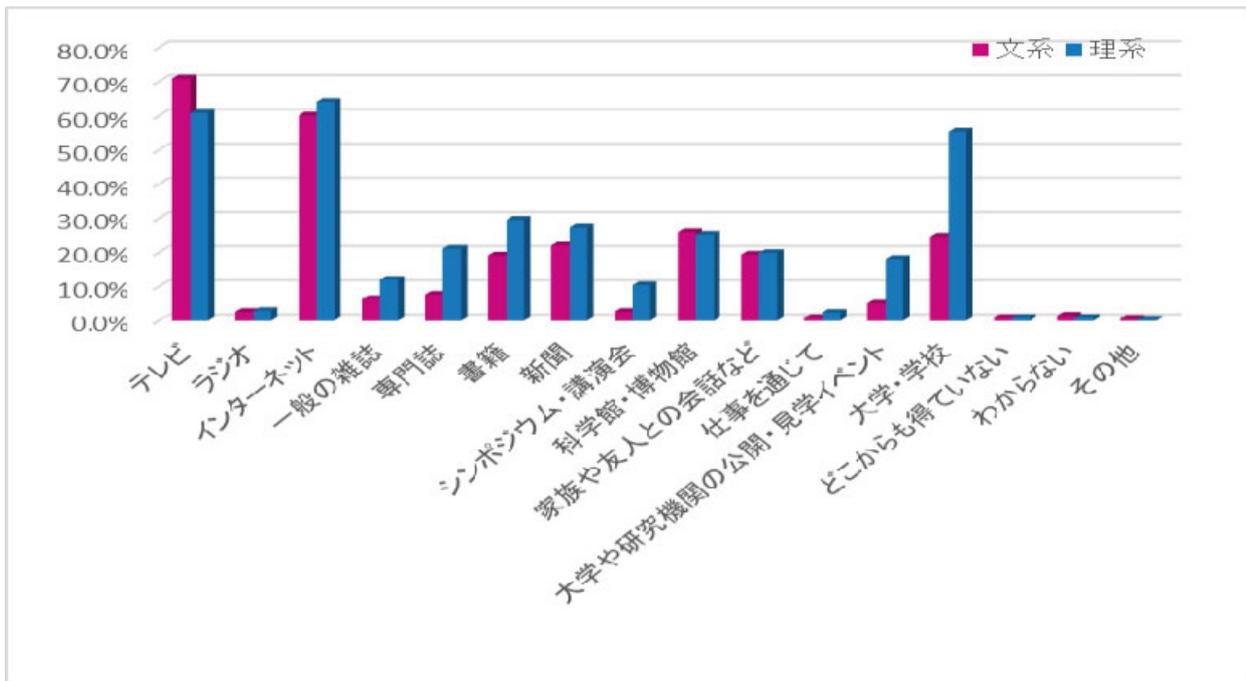


	文系		理系		全体	
ある	142	32.8%	412	56.5%	554	47.7%
ある程度ある	211	48.7%	260	35.7%	471	40.5%
あまりない	34	7.9%	17	2.3%	51	4.4%
ない	7	1.6%	6	0.8%	13	1.2%
どちらとも言えない	36	8.3%	27	3.7%	63	5.4%
わからない	3	0.8%	7	1.0%	10	0.6%



- ・全体では「関心がある」、「ある程度ある」で約9割であり、内閣府調査の同年代と比較すると関心が高い。
- ・文系の学生は「ある程度ある」が一番多く、理系の学生では「関心がある」が一番多い。
- ・文系の学生では「どちらとも言えない」「あまりない」の回答が、理系の学生に比べて多い。

【科学技術に関する知識の情報源】（複数回答可）



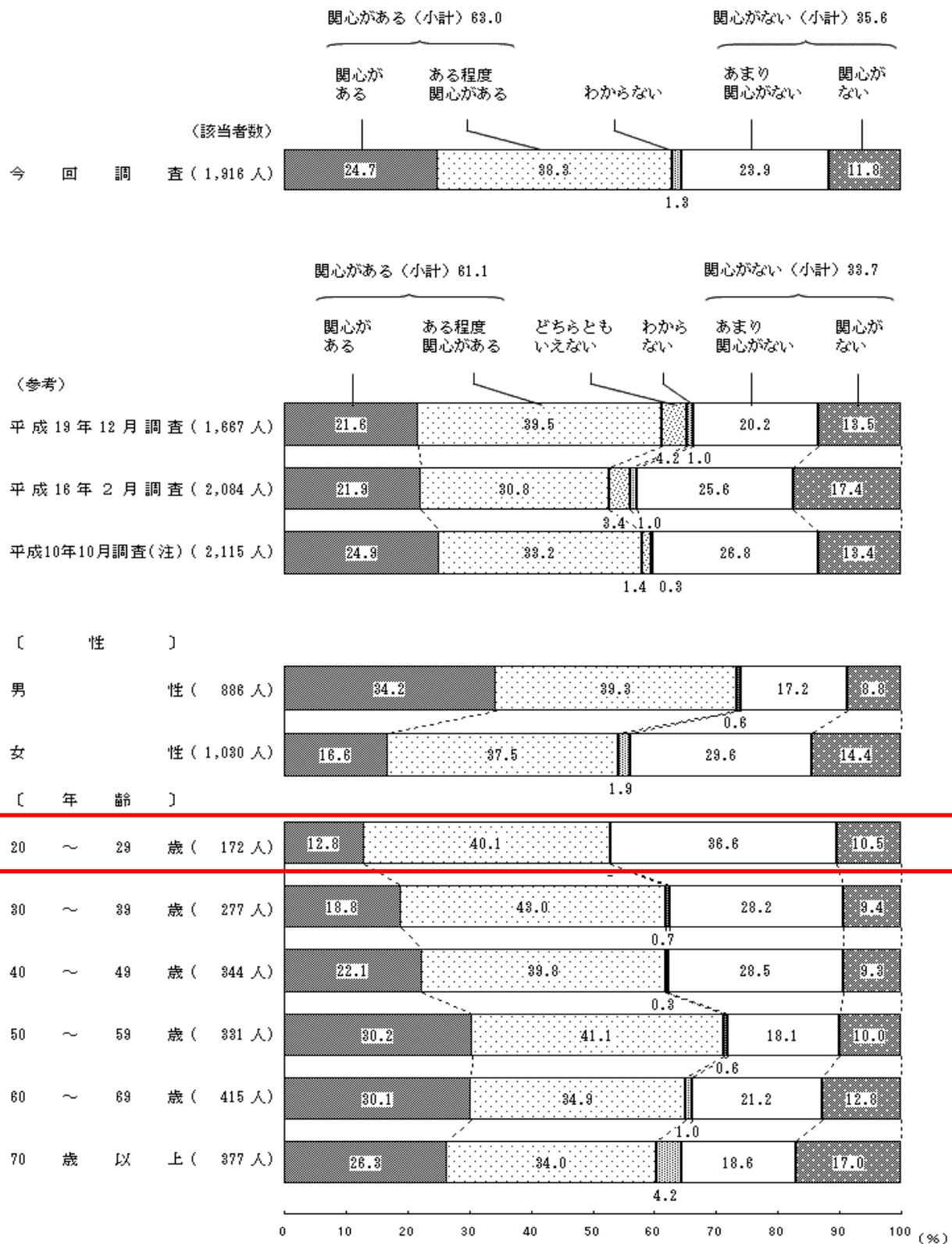
各区分における上位6項目

順位	全体		文系		理系		男性		女性	
1	テレビ	67.0%	テレビ	70.7%	インターネット	64.1%	インターネット	69.4%	テレビ	69.6%
2	インターネット	64.9%	インターネット	60.1%	テレビ	60.9%	テレビ	61.0%	インターネット	53.5%
3	大学・学校	45.3%	科学館・博物館	26.0%	大学・学校	55.3%	大学・学校	44.9%	大学・学校	42.0%
4	書籍	26.6%	大学・学校	24.7%	書籍	29.6%	書籍	32.2%	科学館・博物館	27.0%
5	科学館・博物館	26.4%	新聞	22.0%	科学館・博物館	25.2%	科学館・博物館	24.3%	家族・友人	22.8%
6	新聞	21.7%	家族・友人	19.4%	専門誌	21.1%	新聞	22.4%	新聞	18.9%

- ・「テレビ」「インターネット」を情報源とする割合はどの区分でも高い。
- ・理系学生では、情報源として「インターネット」「テレビ」「大学・学校」がほぼ同じ割合である。
- ・文系・理系・男性・女性問わず科学館・博物館が上位5位までに入っている。

(参考 内閣府「科学技術と社会に関する世論調査」平成 22 年 1 月調査)

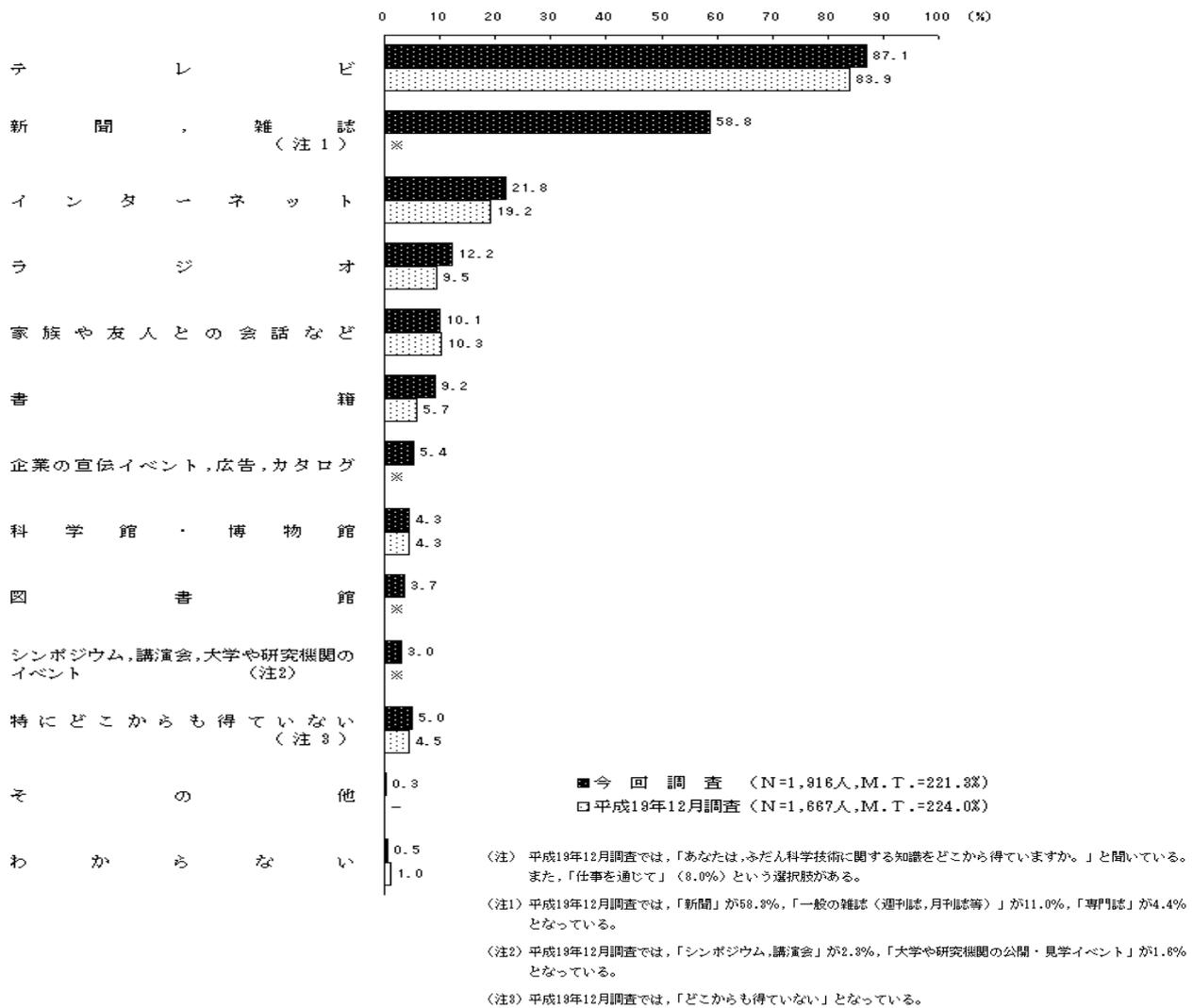
図1 科学技術についてのニュースや話題への関心



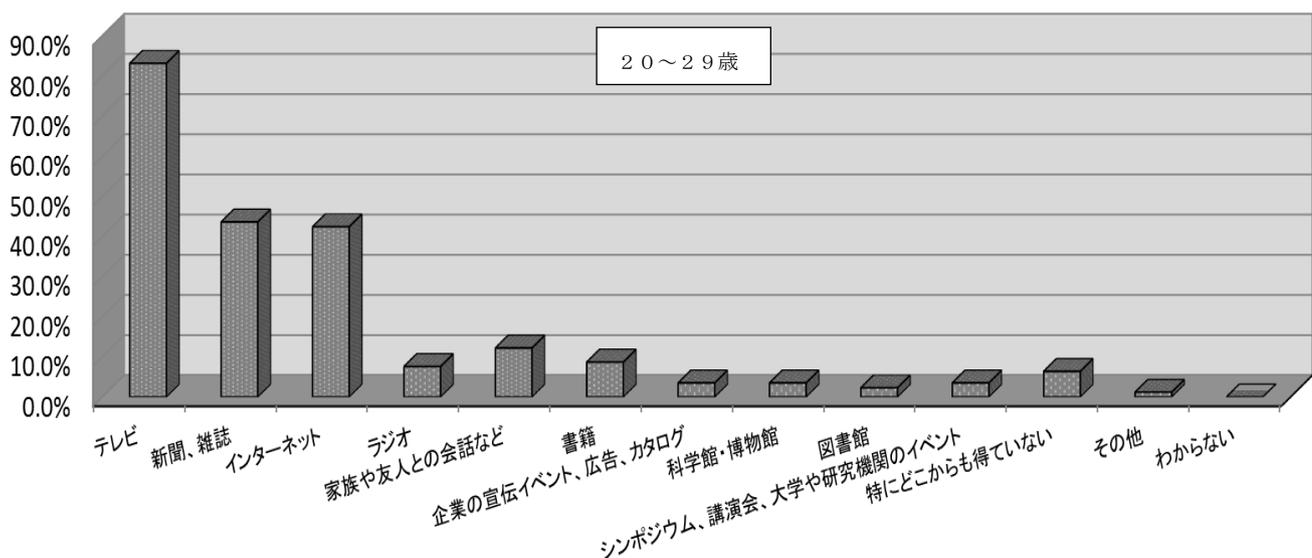
(注) 平成10年10月調査では、「どちらともいえない」は回答票に列記していない。

図2 科学技術に関する知識の情報源

(複数回答)



N=172



内閣府調査との比較

- ・ 20代と比較すると、本調査回答者は科学技術に関する興味関心が高い。
- ・ 平成22年度の結果との比較ではあるがインターネットを情報源としている割合が高い。

【自由記述】

好意的(全般・展示)		
科学技術の発達に関する展示で「mol」や「超伝導」など認知度の低い専門用語に関して説明されていたのは良かった。mol が分子量を指すことに加えて「なぜそのように表すのか? どう使用するのか?」など実用的な話しを加えると抽象性が減って取っつきやすくなると思う。	理系	男
シアター360 はただ見るのではなく体感して”体で見る”ことのできる画期的な展示だと思う	理系	男
自分の専門分野の中でさえ、新鮮な発見があった。大学に来た後だとより楽しめた。科学的な展示以外だと「ひょうたん」の展示がユニークで良かった。	理系	女
ノーベル賞受賞者についての解説がわかりやすく、報道で聞いたときよりも理解できた。写真撮影が基本 OK なのはとても良いと思う。化石がかっこいい。	文系	女
リニューアルした地球館の展示がより奥深いと感じた。また研究者によるディスカバリートークや特別展など、興味の沸くイベントが多様で何度でも来館したいと思った。	文系	男
好意的(パートナーシップ)		
大変勉強になり、経済的に学生として助かる	理系	男
普段あまりこういう場所になじみのない学生にも、足を運ぶきっかけとなって、とてもよいと思う	文系	男
無料で入れて、たくさん学ぶことができるなんて大学パートナーシップを組んでいてうれしい。	文系	男
好意的(ボランティア)		
日本人の骨についてボランティアの人から説明を受けてとても興味深く感じました。生活様式の違いが骨に表れるのはとてもすごいと思いました。また説明を受けてみたいと思いました。ありがとうございます。	文系	女
たくさんの特展があり感動した。またボランティアで来た人がこまめに教えてくれてよかった。	理系	男
要望・意見等(全般・展示)		
1 階、生命と細胞の分野の再現率の高さは、何度見ても感動します。リニューアルしてから、子供向けの展示が多くなった印象。少し落ち着かない。	文系	女
地球館の B3 の展示は理工系以外には説明なしでは理解できないと思う。スマートフォンのアプリ等と連係させて解説が見れるとよい。特に何のためにその研究をしているのかという背景を詳しくわかりやすく書いてほしい。	理系	男
要望・意見等(パートナーシップ)		
学生だけでなく教員も利用できるようにしてほしい	文系・理系	男

